

2007.11.27 大糸タイムス 報道

北ア広域ごみ処理計画/候補地周辺 断層調査へ

北アルプス広域連合が白馬村飯森を候補地とした新ごみ処理施設計画で、牛越徹連合長は26日の連合議会11月定例会で、活断層の確認調査を候補地に隣接する姫川河川敷で行う考えを明らかにした。また、専門機関に分析を依頼していた希少猛きん類の生息状況については、引き続き調査が必要との見解を示した。

調査は、主断層から分岐する副断層の有無や断層が実際に活動しているかを調べ、姫川の東側山地を通っているとされる神城断層と候補地との位置関係を確認する。土砂を取り除いて副断層と疑われる岩盤を判別する河川調査と、河川西側10メートルを掘削するボーリング調査を行う。

調査場所は、今月19日に同村と連携する信州大学山岳科学総合研究所が視察しており、分析は同研究所に依頼する。実施時期は年度内で大量に積雪する前(牛越連合長)としているが、早ければ12月中旬にも実施する見通しで、掘削などの作業費は、当初予算の調査委託料から156万円余を充てる。

猛きん類の生息は、白馬村が委嘱した保護監視委員の調査結果を、県環境保全研究所へ分析を依頼、候補地内でオオタカなど希少6種の営巣はなかったものの、周辺でノスリの巣が確認されているとした。その一方で、繁殖期の2~4月の調査時間が短く「調査不足」と位置づけており、同連合では1営巣期(2月~8月)の調査を継続する方針。

牛越連合長は「予備的調査ではなく、事実関係を確認するための作業。より客観的なデータを住民に示したい」と話している。定例会ではこのほか、住民有志による「白馬新ごみ処理施設を考える」連絡協議会が提出した、同計画の白紙撤回を求める陳情書と建設計画説明会の開催の陳情書2件を継続審査とした。

2007.11.27 信濃毎日新聞 報道

白馬のごみ焼却施設候補地/周辺の活断層調査へ 北ア広域

北アルプス広域連合の牛越徹連合長(大町市長)は二十六日開いた同連合議会定例会の冒頭あいさつで、住民から反対の声が出ている白馬村飯森地区の新ごみ焼却施設の建設候補地について、周辺の活断層の調査を行うと述べた。白馬村が今年行った猛禽(もうきん)類の生息状況調査については、県環境保全研究所に依頼したデータ分析の結果を受け、さらに調査が必要とし、来年もオオタカの営巣期(二~八月)に調査を行う方針を説明した。

反対住民が影響を懸念している活断層については本年度、候補地の東を流れる姫川の河川敷内で、土砂の除去とポーリングを約百六十万円で実施。活断層とも考えられる周辺の地層が活断層かどうかと、断層が候補地に対してどう走っているのか、確認をする。分析は、白馬村が連携協定を結ぶ信大山岳科学総合研究所に依頼する。

牛越連合長は同定例会の一般質問で「万が一、建設地とすることに支障がある重大な問題が出てきた時は、建設地としないということになる」と答弁した。

猛禽類調査は、白馬村が県の希少野生動植物保護監視員に委託して二―八月に行った。環境保全研究所は十一月二十一日付の広域連合長への回答文書の中で、村の調査で営巣が確認されなかったオオタカについて、二、三月の調査時間が、ほかの期間に比べて短いと指摘。「この時期、繁殖に失敗している場合、営巣地があったとしても適切に把握できないと考えられる」などとした。